

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104373
法人名	社会福祉法人 恵会
事業所名	グループホーム はっぴー
所在地	鹿児島市下福元町9558番地27 (電話) 099(262)5505
自己評価作成日	平成30年9月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①菜園や花壇をご利用者様と職員と一緒に世話し、季節を感じ収穫を楽しんでいます。
- ②自然の地形を活かすことでのんびりと家にいるような感覚で生活して頂いています。
- ③ご入居者様の状態に合わせて朝・昼・夕の散歩を日課としています。
- ④濡れ縁や庭でのお茶会や食事会を行っています。
- ⑤毎月ホーム便りを発行し、ご家族様にホームでの様子を報告しています。
- ⑥猫を飼いアニマルセラピーを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 事業所は市街地から少し離れた場所にあり、同敷地内に法人の運営する特別養護老人ホームやデイサービス、有料老人ホーム等が隣接しているため、夏祭りや災害訓練等の実施にあたっては、法人全体で取り組み連携を図っている。また、利用者の高齢化に伴い、徐々に外出が難しくなるからと、理事長自らが敷地内に桜の木を植林するなど、温かな配慮が感じられ、職員も法人全体で利用者を見守り、寄り添う姿勢を持ちながら日々の支援につなげている。
- ユニットリーダーと管理者で構成する「身体拘束廃止推進委員会」による研修会を定期的実施し、処遇・スタッフ会議で報告している。「ちょっと待って」等の言葉による拘束については、日頃から注意し接するようにしているが、職員による不適切な言動を確認した場合は、その都度注意を促したり、話し合うことで確認し合うようにしている。
- 夜間想定を含む災害訓練を年2回、隣接する事業所と合同で実施するほか、避難経路の確認や通報、消火活動の方法など、マニュアルを参考にしながら確認している。備蓄については、隣接する特別養護老人ホームで一括管理しているが、台風などの際は予め、食材や備品を準備するようにしている。事業所はオール電化のため停電に備える必要があり、今後は自家発電設備の設置を検討しているところである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営 (A棟)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着の理念を盛り込み、目のつく場所に掲示し、常に理念を意識して処遇を行い、スタッフ会議や申し送り等で共有している。	ホールや玄関等、目に付く場所に理念を掲示し、スタッフ会議や法人全体の朝礼時に読み合わせ浸透を図っている。特に「お一人おひとりの思いや願い」が叶えられるよう、利用者の思いや希望を日常の言動から汲み取り、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に民家が少なく、地域とのつながりは難しいが、近所の店を利用したり母体の特養やデイサービスの行事、夏祭り等で交流の場を増やし、関わることでより関係を深められるよう心掛けている。介護手伝い隊を利用している。	事業所が住宅地から離れた場所にあるため、地域交流は難しいが、近所のお店に買い物に出かけたり、馴染みの美容室に行くなど交流している。法人の夏祭りには、地域住民を含め1500人程が参加され、出店や抽選会、打ち上げ花火を楽しむなど、地域住民の楽しみの場であり、交流の場となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人全体ではっぴーファンクラブの活動や年2回の協力相談会を通して地域の方と関わりを持っている。見学の方や入居申し込み時に認知症の方の支援方法を説明し理解を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族様全員と長寿安心相談センター、民生委員の方に開催案内を行い、2か月毎に開催している。それぞれの立場からの意見・情報交換の場となり、サービス向上に取り組むようにしている。何気ない会話の中に意見や要望が隠れているので、時間をかけるようにしている。</p>	<p>利用者や家族、民生委員や包括支援センターの職員等が参加する会議を2か月毎に開催している。主に事業所の活動内容や利用者状況の報告を行うほか、感染症対策や身体拘束についての勉強会を組み込むなど、有意義な会となっている。散歩時に避難経路を歩くなど、メンバーからの意見を積極的に実践につなげている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>書類提出等でコミュニケーションをとっているが十分とは言えない。生活保護受給者の受け入れを行っており少しではあるが以前より連携を図るようになっている。</p>	<p>行政職員とは介護保険関係の書類提出や法改定、日々の業務でわからないことが生じた際に電話や直接相談に出向くなどしている。また、行政主催の研修会に参加したり、グループホーム協議会の研修での意見交換など、日頃から事業所の実情を伝え協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束は行っていない。勉強会を通して意識を高めている。日々のケアの中でも拘束を意識しながら業務を行い迷った時には皆で話し合うようにしている。個々の状態に合ったケア、見守りを行っている。</p>	<p>身体拘束廃止推進委員会を設置し、定期的に研修会を開催し、スタッフ会議で報告している。言葉による拘束については、日頃より注意し接しているが、不適切な言動が見受けられた場合は、その都度、注意を促したり、朝礼時に確認している。また、自由な暮らしを支援するため、職員間で連携を図り、さり気ない見守りを徹底させている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的にスタッフ会議にて勉強会を行っている。資料を使い具体例を通して理解しやすいようにしている。職員間で注意し合い防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内外の研修に参加し、ホームでも勉強会を実施している。理解を深めるための機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居者様・ご家族様が不安にならないよう、契約・解約時には時間を十分に取り、説明を行い理解・納得して頂き同意を得ている。改定時には都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に意見や要望を気軽に言えるような雰囲気作りを行ったり、ご家族やご入居者にアンケートを行い運営し反映させている。玄関入口に意見箱を設置しご意見・ご要望等を書いて頂くようにしている。普段の何気ない会話の中にも意見や要望があると考えるようにしている。	年1回、利用者と家族に満足度調査アンケートを取るとともに、来所時に意見を尋ねるようにしている。また、家族会や運営推進会議終了後の何気ない会話からも意見を汲み取るよう努めている。家族に送付している「連絡表」には、担当職員と看護師の意見を添え、ホーム便りとともに事業所での様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の処遇・スタッフ会議で意見交換を行ったり、日頃のミーティング等でも気軽に意見や提案ができるようにし、反映させている。気軽に意見が言えるような雰囲気作りを心掛けている。	管理者は毎月のスタッフ会議や朝夕の申し送り時に職員から話を聞くほか、昼休みなど日常的に意見を出し合っている。職員からは、休日取得や研修会への参加、園外活動の提案など積極的に意見が出され、丁寧に汲み取り業務に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事考課を実施。自己評価をもとに面談を行い職員の意向や相談を受けながら向上心を持って仕事ができるように働きかけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修・勉強会に積極的に参加させている。毎月のスタッフ会議では担当を決めて勉強会を行っている。日々の業務でもそれぞれ担当を決めて行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の会員登録を行っている。ケアマネ研修に参加しネットワーク作りを行っている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (A棟)					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご入居様が自分の思いを言えるような声掛け、環境作りを行い顔見知りの関係を築き、本人のペースで生活できるように積極的にご入居様と関わりを持ち信頼関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時から入居までに居宅ケアマネを含め話合いの場を設け、ご家族様が納得、安心されるように話を傾聴し信頼関係作りに努めている。ご家族様の状態を職員間で共有し入居までスムーズに行えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用できるサービスやできないサービスについて資料等を用いて説明し、ホームで快適な生活が送れるように、ご入居者様やご家族様の意向や願いに添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の気持ちや状態を第一に考え、喜びや悲しみを理解しながら寄り添い共に支え合う関係になれるように努めている。できる部分、できない事を無理のないように行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の様子や変化を随時ご家族様に連絡、相談しながらご入居者様のためにとの思いを共通認識し、協力体制を常に取りご家族様との良い関係が築けるように努めている。個別に毎月連絡表を送付し、食事介助の協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス、ショートステイの利用者との交流を図ったり、ご家族・友人等との交流を持てるようにしている。電話の取次ぎや手紙の代筆を行い、交流が持てるように支援している。	これまでの生活歴を丁寧に聞き取ることで馴染みの人間関係や場所を把握し、電話や手紙の取り次ぎのほか、美容室やお墓参りに出かけるなど、家族と職員が協力し合い支援している。また、入居者の飼い猫も共に受け入れるなど、本人の希望を可能な限り実現するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士と一緒に生活する仲間として受け入れ支え合うような環境作りに努めている。ご入居者様の状態を把握して、他者との交流を工夫している。A棟・B棟気軽に行き来できるようにしている。席替え等随時行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴い退居されても医療機関への訪問を行い、本人の状態を職員間で把握している。母体の特養やショートステイ・有料老人ホームへ移動された時は職員間で情報交換や連携を図っている。ご入居者様、ご家族様が不安にならないよう関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (A棟)					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で聞き逃さないように努めている。思いを伝えられないご入居者様には、簡単な質問や表情から察するようにしている。日誌や日々の記録に残すようにしている。	入居時に本人や家族から生活歴や楽しみごとを詳細に聞き取り、「基本情報」等に記録し、課題分析まで行っている。また、思いをうまく伝えられない場合は、日頃の言動や何気ない会話も参考にしながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを定期的に行い、職員間で情報の共有を図っている。日頃の会話や日常生活の中からアセスメントを行って情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の生活、心身状態の変化の「気づき」を記録に残し、ホームでの生活が継続できるよう、できる事、以前よりできない事を職員が把握し支えていけるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティング、処遇会議で意見を出し合いご入居者様本人がより良く生活できるように努めている。ご入居者様・ご家族様・主治医・看護師と話し合い、得た情報を介護計画、モニタリングに活かしている。	利用者や家族の意向を基に、主治医や看護師からの情報や職員間でのカンファレンスやモニタリング評価を参考にしながら介護計画を立てている。また、入退院や歩行が難しくなった等状態に変化がみられた場合は随時、介護計画を見直し、現状に即した介護計画に作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムや日誌を活用し、日々の体調の変化や生活状況を入力することで情報の共有に努めている。ご入居者様の言葉や言動をそのままの言葉で具体的に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様、ご家族様の状況に応じて受診の送迎、付き添い等日頃の必要な支援を行っている。また相談されたことなど主治医や看護師、園で検討し皆で支えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得て話し相手、園外活動、消防訓練等を行っている。運営推進会議に参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様・ご家族様の希望する主治医となっている。ご入居者様の状況や状態を随時伝え、情報の共有に努めている。受診票・往診票を随時記入し記録として残すようにしている。	入居前の受診状況を把握し、入居後もこれまでのかかりつけ医による訪問診療や専門医の受診を家族と職員が協力して支援している。また、医師とは「受診、往診記録」用紙を用いて情報を共有し、把握した情報は家族にきちんと報告することで、安心につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員からの情報、日々のバイタル測定・観察などで異常の早期発見に努めている。ご入居様様の体調に変化が生じた際には速やかに管理者・主治医に連絡を行い、指示を受けるようになっている。また家族への連絡・説明等行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご入居様様の主治医との情報交換を定期的に行っている。入院した際には病状の確認を医療機関とこまめに行っている。ケアプランや必要な情報提供を行い、SWとも密に連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご入居様様・ご家族様がホームでの看取りを希望された場合は、終末期のあり方について説明を行い、同意を得た上で受け入れている。意向が変わることがあるので、ご入居様様の状態により配慮するようにしている。定期的に意向を確認するようにしている。</p>	<p>これまでに何度も看取りを支援しており、重度化やターミナルケアの研修にも積極的に参加し、知識と技術の向上を図っている。入居後、信頼関係ができてから、重度化した場合の指針や終末期支援に関する覚書について説明していたが、今後は入居時の説明と、その後も繰り返し確認することで、本人・家族の変化する思いに対応したいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを目につく場所に置き、慌てずに対応するように努めている。勉強会や対応の確認を定期的にスタッフ会議等で行っている。園内研修で勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全部所合同で消防署立会いのもと消防訓練・避難訓練・通報訓練を行い、訓練後も消防署の方から指導を受けている。災害別のマニュアルを作成し確認を行い、速やかに対応ができるように努めている。	夜間想定を含む災害訓練を年2回、隣接する法人事業所と合同で実施しており、他施設の職員には主に避難場所での見守りをお願いしている。また、スタッフ会議でマニュアルを使用して通報や避難経路の確認を行っている。備蓄は、隣接事業所で一括管理しており、備えとして自家発電機の導入を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (A棟)					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様お一人お一人の個性に合わせて、人格やプライバシーを損ねない声掛けや対応を行っている。ミーティングでも確認しながら、人生の先輩として接するようにしている。	倫理や接遇に関することが記された「職員心得帳」を作成し、スタッフ会議で振り返るようにしている。トイレ誘導の際の声のかけ方やカルテの管理方法、来所者への守秘義務の説明等、適宜プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でご入居者様の希望や思いをお聞きし、場合によってはご家族様の協力を頂き、状況に応じて可能な限り希望に沿うように努めている。自己決定できるよう声掛けや対応を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、ご入居者様のペースに合わせてケアを行うように努めている。行動を阻害しないようにしている。時間に縛られないようにご入居者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝・夕、普段着、寝間着への更衣を行っている。化粧やマニキュア等を希望により行っている。定期的に移動美容室を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態で、残存機能を活かしながら、ご入居者様のペースで食事を楽しんで頂けるよう支援している。法人の管理栄養士の協力を得て栄養面も工夫して提供している。片付けや食器洗い、食材の下ごしらえ等できる手伝いを行っている。	献立は法人の管理栄養士が立てており、主菜は法人の特別養護老人ホームで調理されたものを食べている。みそ汁やおやつについては事業所で作るため、調理の下ごしらえ等、利用者と職員が共に取り組んでいる。行事食の提供や外出に出かけるなど、食べる楽しみを大切にしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分摂取量を記録に残しバランスよく確保できるように努めている。摂取量の少ない方は内容を工夫したり、代替えを提供するなどして召し上がって頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様の状態に合わせて口腔ケアを行い、清潔に努めている。義歯は夕食後に義歯洗浄剤にて洗浄している。歯科医と連携を図り口腔ケア管理を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、一人一人の排泄状況に合わせて、できるだけトイレでの排泄が自力で行えるように支援している。動作や目的の声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄状況や食事、水分摂取状況を記録することで個々の排泄パターンの把握につなげている。リハビリパンツやパットを使用される方が多いため、パットの当て方講習を受けることで失敗を減らし、衛生面に配慮することにつなげることができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や起床時の牛乳の提供やおやつで乳製品を提供する等工夫している。オリゴ糖や芋パウダーを利用したり、体操や腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴前に体調のチェックを行い、希望に沿った入浴方法を行っている。お湯は一人一人入れ替え、ご入居者様の希望に応じて介助職員を男性・女性選べるようにしている。好みの香りやシャンプー、ボディソープを使う事で喜ばれる方もおられる。	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、トイレの失敗等状況に応じて随時入浴は可能である。入浴が楽しみとなるよう、ゆず湯や入浴剤を使用したり、入浴後の水分補給として、スポーツ飲料やコーヒー等、好みの物が飲めるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	消灯、起床時間をその日のご入 居者様の体調・睡眠状態に応じ て検討したり、居室やソファーで 過ごす時間を工夫している。消灯 までにはゆっくり過ごす時間を 作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	投薬時は職員二人にて目視、読 み上げ確認を行っている。薬につ いての勉強会を行い、変更時は 看護師から申し送りを行い周知 している。薬剤師と連携を図り 、ご入居者様に合わせた性状に している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	ご入居者様の好きな事や興味を 理解し、音楽鑑賞、カラオケ、 手伝い散歩、色塗りなど一人一 人に合った過ごし方ができるように 支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ご入居者様の体調、意向を考慮 してホーム周辺を職員と話しな がら散策したり、定期的に園外 活動を行っている。ご家族様の 協力を得ながら外出支援の機 会を作っている。	初詣にユニット単位で出かける ことができたが、高齢化に伴い 集団での外出が難しくなってい るため、個別に出かけることが 多くなってきている。桜やコス モス等季節の花見や、道の駅、 大型スーパーで買い物を楽しむ など外出の機会を作っている。 歩行の難しい方も車椅子やリ フト車を利用して出かけるなど 、状況に応じて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人での金銭管理が難しく、ご家族様への了承を頂き小口現金をお預かりしている。買い物や外出した際にはご入居者様の理解力、能力に応じて職員が見守りを行いお支払いをして頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆や自分で書かれた手紙の発送、電話の取次ぎを行っている。ご本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を食堂内や玄関に飾り、通路や各部屋には写真を貼る等温かい空間になるように努めている。ご入居者様が自由に動けるような空間作りを行っている。温度計、湿度計にて室温調整を行い快適に過ごせるように努めている。テレビや音楽の音、照明等にも注意を払っている</p>	<p>リビングと廊下の天井は高く、高窓もあり大変明るい。直線の廊下は、足元にあえて曲線のデザインを取り入れたことで視覚的に奥行きが広がりが感じられるほか、身長差を考慮した2列の手すりが途切れることなく取り付けられるなど、利用者の安全に配慮された構造となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や食堂、集いの間にはベンチやソファを設置し、ご入居者様同士でもお一人でも過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人の馴染みの物や好きな物を置いたり、手紙や写真、本人の作品等を飾ったりしている。逆に気になる方には部屋の装飾棟控えている。好きな香りがある方は芳香剤も使用すると喜ばれる。ご家族様からも情報を得るようにしている。</p>	<p>畳とフローリングの部屋が用意されており、エアコンと小タンス、介護用ベッドが備えられている。また、全室掃き出し窓のため開放感があり、自由に濡れ縁に出る事ができるとともに、緊急時にも避難しやすい造りになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご入居者様と一緒に作業しやすいようにまた、車いすでも自由に往来できるようにになっている。居室でも動きやすいように家具等を配置している。廊下の障害物を少なくしている。トイレ案内でも安全を確保しながら個々に合った案内方法を行っている</p>	/	/

V アウトカム項目 (A棟)

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない